



ZERO

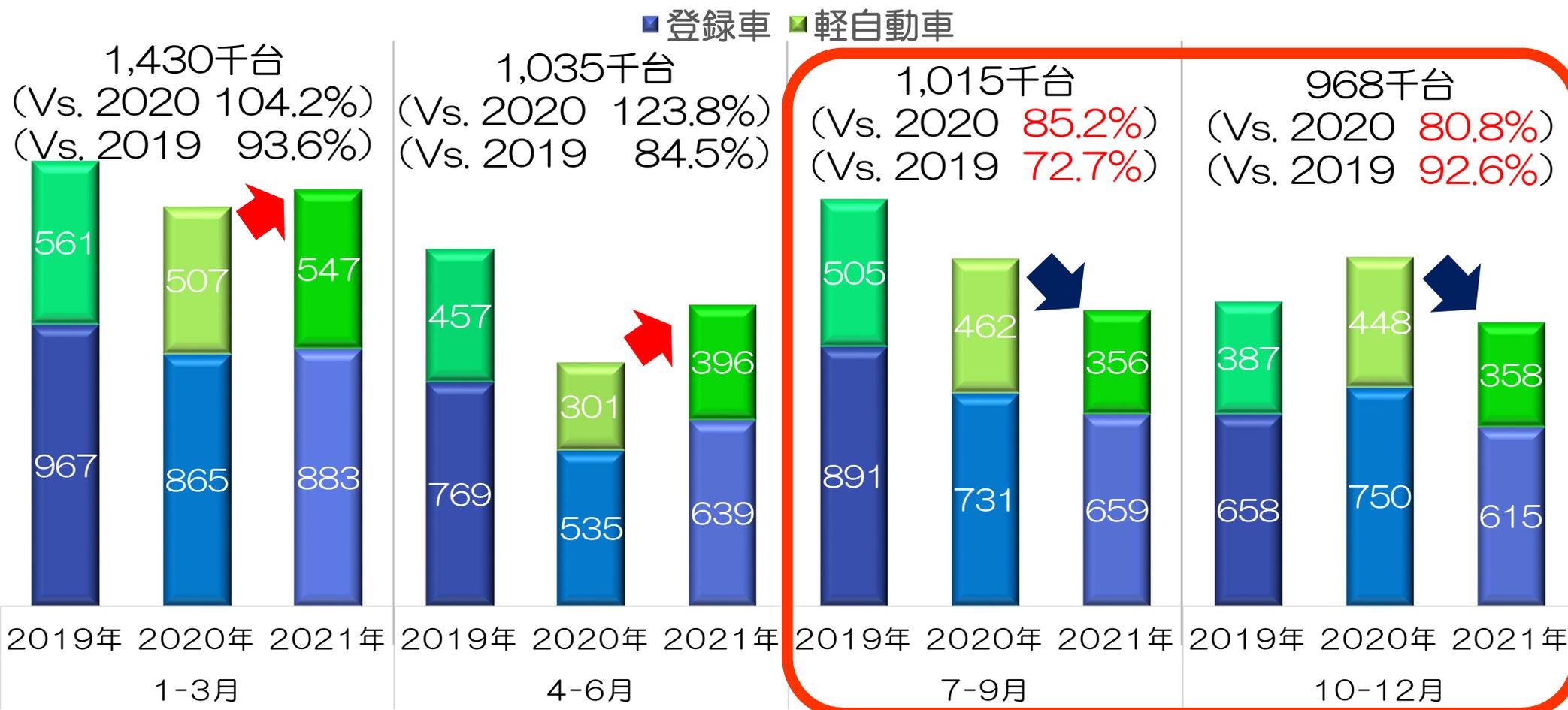
2022年6月期
上半期決算説明資料
(2021年7月~2021年12月)

2022年2月10日
株式会社ゼロ 代表取締役社長
北村 竹朗

◆ 目次

- ① 2022年6月期上半期の振り返り
 - 2022年6月期上半期の国内自動車総市場
 - 2022年6月期上半期の業績概要と業績分析

- ② 2022年6月期下半期の展望
 - 2022年6月期の業績予想



1-12月	2019年	2020年	2021年
総合計	5,195千台	4,598千台	4,448千台
前年比	98.5%	88.5%	96.7%

- 3年連続前年割れ
- 2011年以来の450万台割れ
- 7-12月は前年比83.0%と大幅減

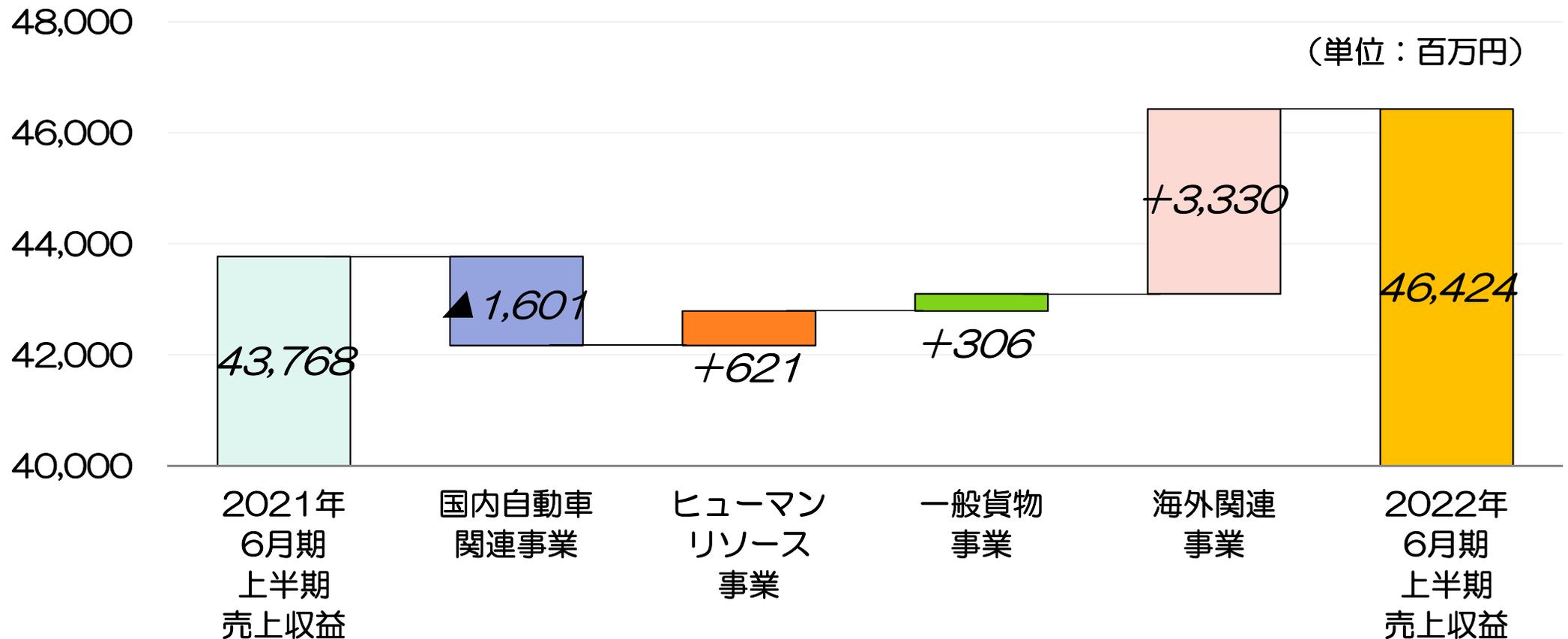
1-6月	2019年	2020年	2021年
総合計	2,753千台	2,207千台	2,465千台
前年比	100.8%	80.2%	111.6%

7-12月	2019年	2020年	2021年
総合計	2,441千台	2,390千台	1,983千台
前年比	96.1%	97.9%	83.0%

(単位：百万円)	2021年 6月期 上半期実績	2022年 6月期 上半期実績	前年実績 との差異	前年比
売上収益	43,768	46,424	+2,656	106.1%
営業利益 (営業利益率)	2,582 (5.9%)	1,344 (2.9%)	▲1,238	52.1%
税引前利益	2,594	1,363	▲1,231	52.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,774	822	▲952	46.3%
基本的1株あたり 当期利益	106.00円	48.92円	▲57.08円	46.2%
中間配当金	15.0円	15.0円	±0円	100.0%

■売上収益：陸友物流（北京）有限公司の連結化、中古車輸出の好調により増収。

■営業利益：半導体不足に伴う自動車減産および自動車流通の不調、燃料費高騰、雇用調整助成金の剥落により減益。



国内自動車関連事業 26,249 → 24,647

- 車両輸送事業における減収 ▲1,100
- 自動車周辺事業における減収 ▲500

一般貨物事業 2,835 → 3,141

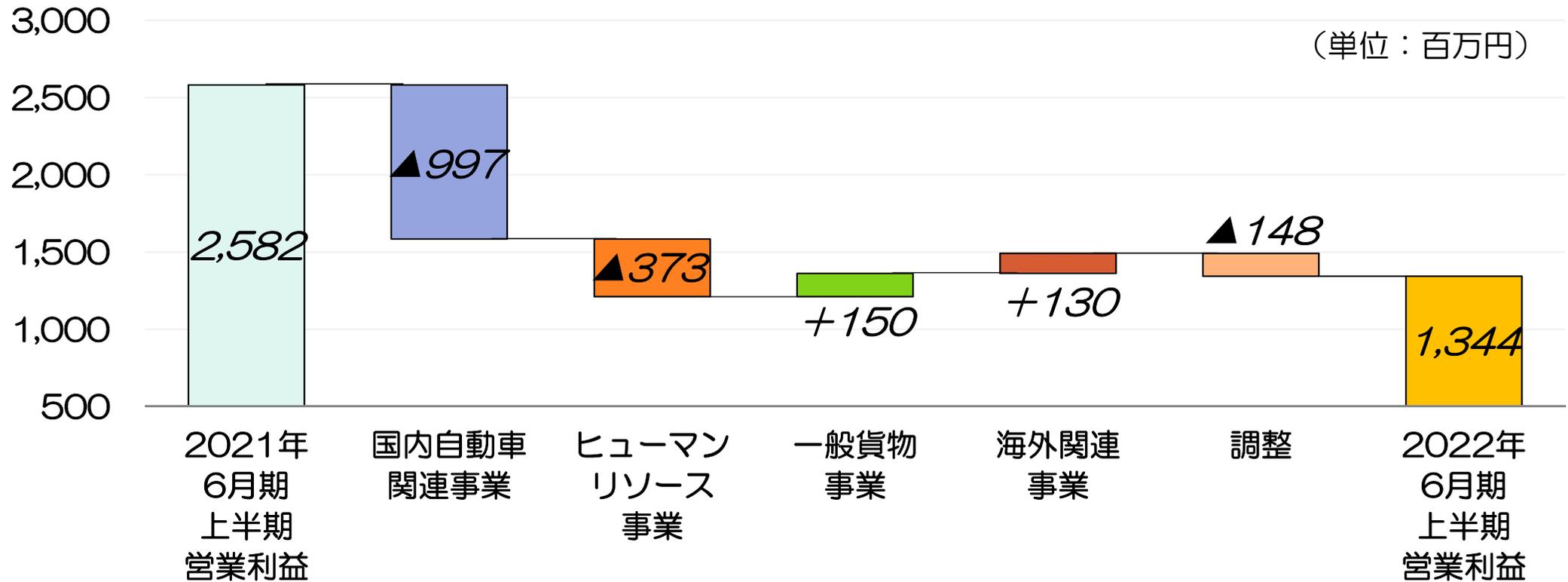
- 運輸・倉庫事業における増収 +270
- 港湾荷役事業における増収 +30

ヒューマンリソース事業 8,996 → 9,617

- 送迎事業における増収 +210
- 派遣事業における増収 +410

海外関連事業 5,687 → 9,017

- 中古車輸出事業における増収 +1,160
- CKD事業における増収 +430
- 陸友物流の連結化による増収 +1,740



国内自動車関連事業 2,693 → 1,695

- 自動車関連事業の減収に伴う減益 ▲600
- 燃料単価の上昇 ▲260
- 海上輸送の燃料サーチャージ上昇 ▲140

一般貨物事業 348 → 499

- 運輸・倉庫事業における増益 +10
- 港湾荷役事業における増益 +140

ヒューマンリソース事業 608 → 234

- 採用費用・社会保険料の増加 ▲40
- 雇用調整助成金の剥落 ▲330

海外関連事業 ▲90 → 40

- 中古車輸出事業における減益 ▲20
- CKD事業における増益 +170
- 陸友物流における減益 ▲20

◆ 目次

- ① 2022年6月期上半期の振り返り
 - 2022年6月期上半期の国内自動車総市場
 - 2022年6月期上半期の業績概要と業績分析

- ② 2022年6月期下半期の展望
 - 2022年6月期の業績予想

2022年6月期の業績予想とその前提

(単位：百万円)	2022年 6月期 上半期実績	2022年 6月期 通期業績予想	2022年 6月期 下半期予想	<ご参考> 2021年6月期 下半期実績
売上収益	46,424	95,000	48,576	48,403
営業利益 (営業利益率)	1,344 (2.9%)	4,750 (5.0%)	3,406 (7.0%)	2,750 (5.7%)
税引前利益	1,363	4,750	3,387	2,779
親会社の所有者に 帰属する当期利益	822	3,200	2,378	1,852
基本的1株あたり 当期利益	48.92円	191.09円	142.17円	110.55円

業績予想の前提

- 半導体不足に伴う自動車減産が解消若しくは緩和される。
- 2021年4-6月より鈍化した中古車流通が新車の供給増に伴い活性化する。
- 新型コロナウイルス感染症の第6波（オミクロン株）が収束する。
- 燃料単価は引き続き高止まりする。